



WE, JOKERS 英語のジョークを楽しむ会会報

No.26 August 10, 2011

QUESTION BOX SUPPLEMENT

QUESTION BOX からの挑戦

質問者：佐川光徳

ふとしたきっかけから、George F. Smith: *The Man Who Saved the World from Smallpox Doctor Edward Jenner* という本を読んでおりましたら、こんな戯れ歌が引用されておりました。元歌はどなたもよくご存知のものですが、パロディー（1881年発行の *Punch* 誌だそうです）の方も、たいへん手の込んだものだと思います。

これに注釈を付けてくださいというのが、今回の挑戦です。



To be, or not to be — that is the question;
Whether 'tis nobler in the mind to suffer
The slings and arrows of outrageous fortune
Or to take arms against a sea of troubles
And by opposing end them. To die, to sleep —
No more — and by a sleep to say we end
The heartache and the thousand natural shocks
That flesh is heir to. 'Tis a consummation
Devoutly to be wished. ...

Soft you now, ...

The fair Ophelia! — Nymph, in thy orisons
Be all my sins remembered.

To vaccinate or not, that is the question!
Whether 'tis better for a man to suffer
The painful pangs and lasting scars of smallpox,
Or to bare arms before the surgeon's lancet,
And by being vaccinated, end them. Yes!
To see the tiny point, and say we end
The chance of many a thousand awful scars
That flesh is heir to—'tis a consummation
Devoutly to be wished. Ah! Soft, you, now,
The vaccinator! Sir, upon thy rounds
Be my poor arm remembered.



ENTER THE JOKERS (in order of arrival)

岡田 茂富

まずパロディーの拙訳を披露します。

ワクチンを打つべきか、打つべきでないか、それが問題だ！

どちらが立派な生き方だろうか、天然痘の恐るべき苦しみと一生残るその跡にじっとたえ忍ぶことか、それとも外科医の執刀を目の前に敢然と立ちむかい、ワクチン注射を打たれることによって幾多の苦しみに終止符を打つことか。そうだ！ 小さい針あとを見れば、肉体に数々の恐ろしい傷跡がひろがる可能性を封じたことがわかる — これこそ願ってもないさいわいというもの・・・

シー、静かに！ ワクチンを打つ医者どのだ。先生！ お願いします。わたしの腕も先生の回診で処置してください。

To vaccinate or not, that is, to vacillate, that is the question.

そうだよ、こんなことで悩むことねーだろ。(欧米では悩む親も多いそうだって)

原文の To be, or not to be - that is the question. は、インターネットで調べると、日本で最初の訳は「アリマス、アリマセン、アレワナンデスカ」だそうです。

嘘だというんですか、ほんとですよ。明治七年、イギリスの通信員チャールズ・ワーグマンによる訳だとのことです。そのほかに大阪弁の訳もありますよ。

やったるか〜、あかんか〜、ほな〜、どないしょ〜。

そのほかのちゃんとした訳では、どれがいいとあなたは思いますか？

「存(ながら)ふか、存へぬか？それが疑問ぢや」
(坪内逍遙)

「生か、死か、それが疑問だ」(福田恆存)

「このままでいいのか、いけないのか、それが問題だ」
(小田島雄志)

「生きてとどまるか、消えてなくなるか、それが問題だ」(松岡和子)

「生きるべきか、死ぬべきか、それが問題だ」
(河合祥一郎)

さて次のリストは何のリストでしょうか？

源実朝、伊達正宗、豊臣秀頼、徳川家光、上田秋成、高杉晋作、明治天皇

エリザベス一世、ルートヴィヒ・フォン・ベートーベン、ジョージ・ワシントン、ヨシフ・スターリン

ご名答。天然痘かかった人々のリストです。用明天皇やレイ十五世は天然痘にかかって死んでいます。

天然痘は1980年にWTOから「根絶宣言」が出され、以後種痘の接種は行われなくなったとのことです。だから、天然痘を生物兵器としてテロに使われると、耐性のない人が多いので大変なことになることは確実です。日本で最後に天然痘を発症したのは、お笑いタレント、オセロの中島知子といわれています。



End your nonsense! OK, OK..

土屋 政雄

【問題文】

To vaccinate (1) or not, that is the question!

Whether 'tis better for a man to suffer

The painful pangs and lasting scars of
smallpox (2),

Or to bare arms(3) before the surgeon's (4)
lancet,

And by being vaccinated, end them. Yes!
To see the tiny point, and say we end
The chance of many a thousand awful scars
That flesh is heir to—'tis a consummation
(5)

Devoutly to be wished. Ah! Soft, you, now,
The vaccinator! Sir, upon thy rounds (6)
Be my poor arm remembered.

【語釈】

- (1) 外来語。一説では日本語由来。「バカ死ねと罵る」の意。
- (2) small pockets の古い表記。小さいポケット、すなわち貧乏。
- (3) bear arms の古い表記。(軍曹のメスに対して) 武器をとること。
- (4) sergeant の古い表記。(貧乏な新兵をいじめるサディストの) 軍曹。
- (5) consume の古い名詞形。(ここでは人肉を) 食べること。
- (6) 丸い肉(たぶん尻、軍曹が女なら胸もありうる)。

【大意】

「バカ死ね」と言うか、言わないか。それが問題だ。
貧乏ゆえの苦痛と心に長く残る傷跡を我慢したほうがいいのか、
それとも、「バカ死ね」とメスをちらつかせる軍曹の前に武器をとり、すべてを終わらせるべきなのか。
そう、小さな切っ先を見て、そんなものにこの体を傷つけさせるものかと宣言し、こちらが相手を食らい尽くす——それこそ、われが心より願うこと。
ああ、柔らかそうな汝、「バカ死ね」と罵る者よ。
汝の丸い肉につかみかかるわがみすぼらしい腕を思い知れ。

新堂 睦子

ハムレット 坪内逍遙訳

世に在る、世に在らぬ、それが疑問ぢや。残忍な運命

の矢や石投を只管《ひたすら》堪へ忍んでをるが男子の本意か、或は海なす艱難を逆《むか》へ撃って、戦うて根を絶つが大丈夫の志か？死は……ねむり……に過ぎぬ。眠って心の痛が去り、此肉に付纏ふてをる千百の苦《くるしみ》が除かるゝものならば……それこそ上もなう願はしい大終焉ぢやが。

しッ、まてよ！うつくしきオフィリヤ！……なう、姫神よ、予《わし》が罪の消滅をも祈り添へておいてたもれ。

パロディ

種痘をする、種痘をせぬ、それが疑問じゃ。

悲惨な苦悶や瘡瘡の消え去らぬ癍痕を

ひたすら堪え忍んでをるのが男子の本意か、

或いは薬師のひらき針を前に、腕も露わに種痘をうけて
災いの根を絶つのが大丈夫の志か？

そうじゃ、針の痕をみつめ此の肉に付纏う

千の苦しみが除かるるものならばそれこそ上もの願
わしい大終焉ぢやが。

まてよ！種痘の植え手よ。薬師殿よ！

巡回の折はわしの哀れなる片腕を思いおこしてたもれ。

**安藤 雅彦**

佐川流の変化球には参りました。ハムレットねえ、僕自身はこの手の文学・教養系を、買ったはずはないけど、いちおう本箱を探索。ありました、河出版世界文学全集1『シェイクスピア四大悲劇集』(昭和40年発行の22版、390円)が。

これで問題のハムレットの独白部分の和訳(三神勲)を確認し、オリジナルとパロディと見比べる。笑える、うまく作ったなと感心。

韻を踏んでいるとか、掛詞だとか、注釈をつけるの

は僕には無理なので、三神訳に倣った和訳で勘弁してください。

「種痘をするか、しないか、それが問題だ！ どちらがより良いのか。天然痘の苦痛と、消すことのできない痘痕をじっと忍ぶか。あるいはかの外科医の針の前に、腕を露にして種痘を受け、病魔の根を断ち切るか。そうするぞ！ ごく小さな針先、それで全てが済むのだ。この肉体につきまとうあまたの痘痕からも、それこそ願ってもないことだ。おお待ち、接種医よ、どうか巡回では、俺の哀れな二の腕を忘れないでくれ。」

REENTER THE JESTER

私見によれば、日本映画のベストテンに必ず入れなければならない鬼才・川島雄三監督・フランキー堺主演の『幕末太陽伝』(1957年)で、小沢昭一演じる「あば金」こと貸本屋の金造をご記憶の方も多しと存じます。(後に、左幸子演じる品川女郎に誘われ、「品川心中」を演じることになります。)

綽名の由来は、申すまでもなく天然痘を患った痕跡が顔面に残っているからです。私の少年時代(1945年の敗戦前後)にも、天然痘から免れた証拠を示す「あばた」のあるお年寄りが、隣近所に数人は見受けられたものでした。

そうした直接体験をお持ちでない方も、世界偉人伝や教科書で、英国の医師エドワード・ジェンナー(1749-1823)が、自分の息子に種痘を試みた逸話をお読みになったことでしょう。

この種痘法をわが国で普及させた幕末の蘭法医・笠原良策のことは、吉村昭の『めっちゃ医者伝』に詳しく語られています。

などとお喋りするのには、今回の私の挑戦は、岡田・土屋・新堂・安藤の四ジョーカーによって、完膚なきまで打ち返され、いまさら“REENTER”と言われても、出題者が申し上げることは、屋上屋を重ねることにしかならないからです。

とりわけ、土屋解答の韜晦ぶりには感嘆するばかり

で、「煮ても焼いても食えない」と申しましょうか、「海千山千」と申しましょうか、出題者としては、裸足で逃げ出すしかありません。とりわけ、VACCINATE を「馬鹿死ぬ」と訳されるに至っては…。

また、新堂さんと安藤さんがなさったように、パロディの日本語訳を、逍遙訳と三神訳のパロディでやってみせるといふ、マトリョーシカ人形のように二重に入り込んだ返し技には、これまた唾然とするばかりでした。

Last but not least. 最後に、悪魔的機知をもって鳴る岡田ジョーカーが、この度は、しおらしいほど優等生的模範解答を示されたのに驚きました。そして、もしやこの方は、見かけとは反対に、わが国の過酷な教育制度の中を模範生として恙なく通り抜けて来られた方ではなかったかと邪推したくなりました。

これでもまだ空白が埋まりませんので、シェークスピア学者・大山俊一氏による注釈などを丸写し(コピー)して、私の浅学を糊塗することにいたします。

- 1.4 to say = if it be the case
- 1.8 flesh = the physical nature of man
(心身二元論を反映した考え方。)
- 1.8 consummation = goal
(この単語が英語史上に登場する初舞台とのこと。)
- 1.9 Soft = しつ。福田恆存訳は「しつ、気をつけるよ。美しきオフィーリア…」
(ハムレットの独白は、跪拝台にひざまずいているオフィーリアの前で行われていて、さらに物陰からは、クローディアスとポローニアスが立ち聞きしているのだから、それらを十分意識した独白です。)
- 1.10 Nymph = ニンフ、美少女
- 1.10 orisons = 祈り
- 1.11 remembered 「そなたの祈りの中に、私の罪の許しも込めておくれ」。福田訳では「おお、森の女神どの、その祈りのなかに、この身の罪のゆるしも。」とあります。
お粗末さまでした。 (佐川光徳)